

「情報社会と倫理」に関する高等学校における倫理学習

- 1 校種・教科・科目（分野） 高校・公民科・倫理
- 2 単元名 「フィルターバブルの空間で自分らしさを考える」
- 3 学習指導要領上の位置付け B（1）自然や科学技術に関わる諸課題と倫理
- 4 カリキュラムマップとの関連性 科学技術と社会の発展
- 5 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
現代の情報環境(フィルターバブルやエコーチェンバー)のリスクについて知る。	現代の情報環境のリスクを、自らが在り方生き方を考え、文章や図で表現することができる。	情報環境のリスクを踏まえ、自らの在り方生き方を考えることができる。

6 単元の特徴（教材観）

ネットで情報を検索する際、私達は、検索サイトを利用する。検索サイトは、プラットフォームと呼ばれる一部の企業が、事実上その支配をおこなっている。検索者の検索履歴を得ることで、アルゴリズムにより、検索者ごとに適切な検索結果や広告を提供する。これらにより、フィルターバブルが生じる。フィルターバブルとは、ネット検索履歴がフィルター化し、まるで泡の中にいるように同じ情報ばかり表示される状態である。アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に孤立するという情報環境が生じる。フィルターバブルにより、検索者には日頃触れている情報しか目に入らないようになる。さらに、TwitterなどのSNSの急速な普及により、エコーチェンバー（反響）効果が生じている。SNSで意見を発信すると、価値観が似ている人から「支持」「似た意見」が繰り返しかえってくる。また、怒りの投稿には、「いいね」「リツイート」をもらおうと、自分の怒りに自信を持つようになる。

民主主義の土台をなす討議の場には自分と異なる意見の人がいるはずなので、討議することで自分とは反対の意見も取り入れられるだろうと思われるが、実際には、逆に先鋭化する例が多くみられると指摘されている。フィルターバブルにより分断は進むことも指摘されている。ネット上では、同じ思考や主義を持つ者同士をつながりやすいという特徴から、集団で討議を行うと討議後に人々の意見が特定方向に先鋭化するような事象がある。

そのうえで、さらにフェイクニュースが流されたら、どうなるのだろうか？ 本物と見分けがつかない偽の画像や動画がインターネット上を駆け巡り、詐欺、政治、戦争などの、様々な用途で利用されるようになってきている。フェイクニュースの登場により、「百聞は一見にしかず」という視覚への信頼をあらわす日本語があるが、むしろ一見は危険な時代に突入した。

近時、ウクライナでの紛争をきっかけに、ハイブリッド戦争が報道されている。国家は、ニュース報道やSNSを活用して情報を操作し、人々の認識・感情などを支配し、世論や行動に与えることが実際に行われるようになったことが明らかになっている。そして、制脳権が取り沙汰されるようになった。制脳権とは、自分の「脳をコントロールするパワー」という意味。具体的には自分達にとって都合がいい情報を流しながら、人々の認識や感情を変えてき、最終的には行動や世論に影響を与えること」（川口貴久 <朝日新聞, 2022年4

月 15 日 >) である。SNS を通じて、この制脳権を奪う時代が訪れた。

SNS を通じて、フィルターバブルのなかで、大量に一方的な情報を浴び、また、リツイートなどが繰り返され、エコーチェンバーによる情報の増幅がおこり、自分らしさを失ってしまう危険な情報環境の時代が到来したのである。

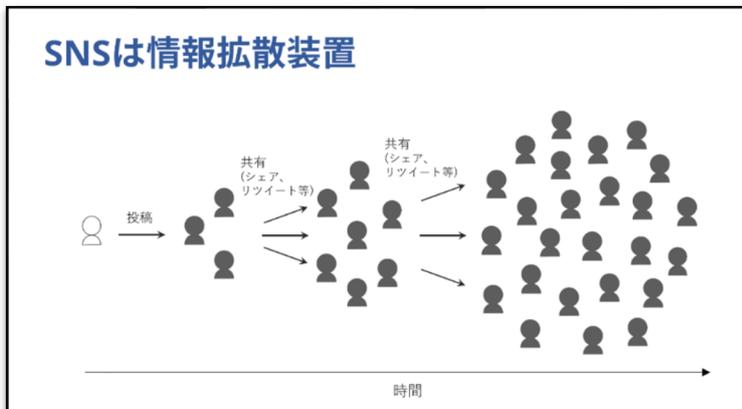


図1 総務省プラットフォームに関する研究会 (2019.6.27) 「フェイクニュース拡散の仕組み計算社会科学の見地から」(笹原 和俊) 資料より引用

ただし、SNS が悪いのかと言えば、SNS のいい面も多くあるので、世の中に広まったのである。いち早く情報を知る上でも効率がいいし、共感を得ることもできる。

そこで、フィルターバブルやエコーチェンバーが生じている現代社会を生きる中・高校生は、現代の情報環境を踏まえうえで、自分のあり方・生き方を考える必要がある。

1時間目で、授業者は、SNSは、自由なプラットフォームであるべきだという理念で運営されているが、つながりたい人とだけ繋がる「同類原理」や、見たいものだけ見る「確認バイアス」により、フェイクニュースの温床になることをおさえる。フェイクニュースが広く拡散してしまうのには、SNS という閉じた環境が関係し、自分の考え方に沿った情報は簡単に受け入れて、反対の情報は排除する傾向がある点をおさえる。さらに、世論を二極化し、社会の分断を招く可能性が生じていることをおさえる。そのうえで、生徒は、SNS は自由で開かれているからこそ、特定の国家や企業、ある種の意図を持った人たちに利用されてしまうリスクを考える。

2時間目で、生徒は2つの視点から考える。1つ目の視点は、「生徒は、SNS は自由で開かれているからこそ、特定の組織（国家や企業や団体）が、意図を持って SNS を利用するリスク」である。現代のビジネスや国家間の戦争は、情報空間における戦いでもある。特定の組織（国家や企業や団体）が意図的に情報を流布した場合、どのようなリスクがあるのかを考える。

2つ目の視点は、「洞窟の比喻」である。プラトンが『国家』のなかで、「イデア論」を説明する際に使用した思考実験である。感覚にとらわれ、感覚を通じて得るものがイデアの影であるにもかかわらず、それらを実在であると思いこんでいることのたとえである。暗闇の洞窟にとじこめられ、奥の壁に向かってすわったままの囚人が、壁に映る背後の事物の影像をそのまま実在であると思いこんでいる。プラトンは、自ら知覚している世界の限界に気が付くことは容易ではないことを説いている。プラトンは、洞窟からぬけだし、太陽の光に照らされた事物の真の姿（イデア）をみることを求めた。

2つの視点を踏まえ、生徒は、「フィルターバブルのなかで、自分らしさを形成するために、個人でできる対策は何か？」を考える。フィルターバブルやエコーチェンバーが生じている情報環境の時代にも、どうしたら、自分らしさを形成することができるのか、さらには、自らの幸福を追求できるのかを考える。

(授業案作成のための参考文献)

- ・ 笹原和俊 (東京工業大学) 『フェイクニュースを科学する』 (化学同人、2018 年)
- ・ 笹原和俊 (東京工業大学) 『ディープフェイクの衝撃』 (PHP 新書、2023 年)

7 単元計画

	時	項目	学習活動
フィルターバブルのなかで、自由かつ公正な言説について考える	1	事例からフィルターバブル・エコーチェンバーの問題点を考える。	○インターネットが公共圏を形成しているのかを考える。 ○SNS の言説について考える
	2	フィルターバブルの中で、自らのあり方・生き方を考える。	○SNS のリスクについて考える。 ○個人での対策を考える。

8 カリキュラム・マネジメント

高校公民科「公共」における「(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方」、および、高等学校情報科における、「情報社会における個人の責任」「情報化が人や社会に果たす役割と及ぼす影響」などに関する部分との関連を図る。

なお、今回のテーマは、公民科と情報科の教科横断する分野であるので、授業では、本校の情報科の先生にも参観していただき、コメントをいただいた。

9 実践概要と実施した様子

(1) 2 時間目の指導の流れ

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 (5分)	【ねらい】 SNS が広がる時代にも、フィルターバブルの中で自らの在り方・生き方を考える。			
	・ 前時を振り返る。 ・ 本時のねらいを知る。			

展 開 (35分)	<p>【事例】A氏は、ネット掲示板での書き込みがきっかけで調べていくうちに、SNSで情報を収集するようになると、特定の人々たちを誹謗するようになった。その人々たちを排斥する運動に加わり、小学校の前で、ヘイトスピーチに参加した。そして、A氏は、不法侵入により逮捕された。</p>		
	<p>【発問】 ネット上で、自由で公正な言論空間が作れるだろうか？</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事案を理解する。 ・エコーチェンバーによる自説が強化されるメカニズムを理解する。 ・プラトンの「洞窟の比喻」の考え方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① SNSは自由で開かれているからこそ、特定の組織（国家や企業や団体）が、意図を持ってSNSを利用するリスクを考える。 ② 「洞窟の比喻」を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを用いて、エコーチェンバーの仕組みを図解して理解しやすくする。
	<p>【発問】 フィルターバブルのなかで、個人でできる対策は何か？</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを出しあう。 ・アイデアのグルーピングをする。 ・アイデアを全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で付箋に書きだす。 ・ボードに張り出し、各意見を踏まえグループで話しあう。 ・クラス全体で代表的なアイデアをシェアする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルターバブルの外のものを意識する。
ま と め (10分)	<p>【発問】 SNSがある時代、自分らしく生きるためにはどうしたらよいか？</p>		<p>【思・判・表】 授業後にワークシートを回収・分析し評価規準にもとづいて評価する。</p>
	<p><ワークシートの「まとめ」を記入する></p>		

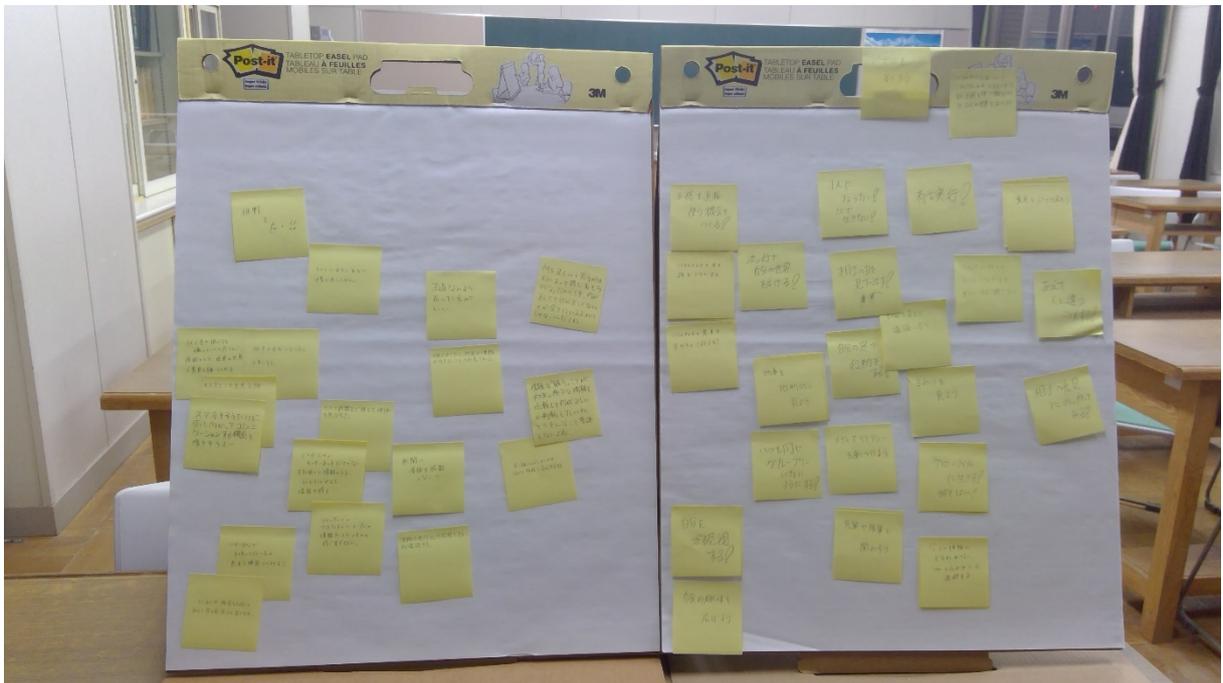
(2) 本時の評価規準

まとめの評価規準 【思考・判断・表現】

「おおむね満足できる」状況 (B) と評価される例
・自分の考えについて、理由をづけて述べるができる。
「十分満足できる」状況 (A) と評価される例
・多面的・多角的な踏まえ、言及している。
「努力を要する」状況 (C) と評価される生徒の例と教師の指導
・問題点を理解することができない。→個別に質疑を行い、課題を把握するように促す。

【発問】フィルターバブルのなかで、自分らしさを形成するために、個人でできる対策は何か？

<生徒の付箋の一部より>



- ・スマホもそうだけど、面と向かってコミュニケーションする機会を増やす
- ・一人で色々調べていると偏っていくと思うので、複数の人と、現実の世界で意見交換をしてみる。
- ・情報は「疑う」ことが大切。様々な情報を比較して何が正しいか判断したいね。でもそんなこと普通しないよね。
- ・無闇に情報を拡散しない!!
- ・いろいろな人の本を読むようにする。
- ・先輩や後輩と関わろう。
- ・バブルを割る。
- ・立場を変えて議論し合う。
- ・情報の発信元が信頼できるかを確認する。
- ・いろいろな人と意見を交わす。(対話)
- ・自分の足で行動する。
- ・一人にならない！一人で生きない！
- ・いつも同じグループにいないようにする。

【発問】SNSがある時代、自分らしく生きるためにはどうしたらよいか？

<ワークシートの「まとめ」より>

「おおむね満足できる」状況 (B) と評価される例

フ	ィ	ル	日	ー	バ	ブ	ル	ハ	進	ん	な	社	会	日	を	意	味	楽	
風	好	の	せ	日	日	に	か	と	思	う	。	メ	日	ブ	ー	ス	を	使	い
て	人	は	自	分	の	空	間	を	創	造	せ	る	よ	う	に	な	る	。	
た	。	将	来	の	理	想	を	見	て	、	会	い	下	い	人	と	対	話	
念	う	ん	ん	理	想	を	自	己	の	前	で	行	っ	て	い	る	。		
は	レ	テ	ニ	シ	テ	自	己	の	身	を	試	み	て	い	る	。	た	し	
か	レ	最	高	の	質	を	求	め	、	い	い	な	か	も	し	い	わ	い	
レ	ッ	カ	日	精	進	レ	テ	勝	て	同	じ	だ	と	思	う	。	私	は	
長	子	持	つ	て	人	と	人	と	対	話	し	て	い	る	。	か	も	考	
統	計	的	な	高	い	快	楽	を	求	め	る	こ	と	は	大	切	だ	。	

フ	ィ	ル	日	ー	バ	ブ	ル	ハ	中	で	日	似	た	さ	う	な	意	見	が
集	ま	り	自	身	の	考	え	が	偏	つ	ま	り	、	そ	の	た	め	私	
は	信	息	を	批	判	的	に	と	ら	味	を	取	ら	ず	、	ソ	ウ	ラ	ニ
違	う	意	見	と	対	話	を	ま	よ	お	し	、	の	機	会	を			
増	や	す	こ	と	が	大	切	だ	と	思	う	。	例	え	ば	ソ	ウ	ラ	ン
運	命	相	を	調	べ	る	エ	で	毎	日	政	府	や	研	究	機	関	の	ワ
り	キ	ニ	シ	テ	有	知	性	と	副	反	応	の	セ	ン	ダ	と	思	い	た
ま	た	、	Y	O	S	H	の	全	て	開	放	し	、	海	外	か	ら	の	留
学	生	と	対	話	を	通	じ	て	自	分	が	日	本	人	の	意	見	に	偏
つ	ま	り	こ	と	に	気	が	つ	い	た	。								

- ・フィルターバブルという言葉は初めて聞いたが、今はバブルに囚われているような感じで、その通りだと思った。フィルターバブルの中に今は囚われているとしても、外部から俯瞰して自分が今どうなっているか判断し、解決できるようにしなければならない。気がつかないうちにおちいってしまっているかもしれないと思った。
- ・今まで勉強として覚えていた「洞窟の比喻」が現在の問題となっている「フィルターバブル」と似ていて関連づけられることに感動した。この学校は本当に色々な意見が出るので面白かった。自分の意見を深められた。SNS を使うことは悪い事ではないし、上手に使いえば様々な情報を得られる道具となるので、上手につき合っていきたい。
- ・洞窟の比喻が、現代の情報社会に通ずるものがあると驚いた。さらに私たちは誰かの手によって踊らされている可能性さえあると危機感を覚えた。自分的には一人からみんなに、影響を与えやすい世の中をうまく使って、福祉や社会保障の拡充を迅速にできるのではと感じた。
- ・「フィルターバブル」「制脳権」などの言葉は初めて聞いたが、自分のフィルターバブルに当てはまるのはないか、制脳権も身近なものになるのではないかと思うと、こわくなった。偏った世界に閉じこもらないためにも、意識的に自分と違う意見を持つ人の情報を取り入れたり、見聞きした情報を批判的な視点で見たり、実際に自分の五感を使って物事にふれたりすることがとても大切なのだと思った。
- ・まずはフィルターバブルを自分で割ることが大事で、人と直接関わる機会を増やすと良いと思った。また人と関わる以外でも、自分の趣味を広げたり、本を読んだり、旅をしたりして五感を使って、自分の世界を広げていくのも良いなと思った。ただの会話ではなく、議論をしたり、談判してたりして、意見をぶつけ合い、相手の様々な意見を聞くことも大事なことだと思った。

SNS が普及し、さらに AI の進化することで、ディープなフェイクが身近に共存する時代が訪れた。スマートフォンを片手に便利で快適な生活を送る生徒達は、この時代のなかでどう生きていくのかを考え得る必要がある。そこで、プラトンの「洞窟の比喻」をヒントに、フィルターバブルのなかで自分の生き方について考える授業を構想した。

授業前に「フィルターバブル」という言葉を知らない生徒達も多く見受けられるなか、授業後は、フィルターバブルの世界だからこそ、リアルな世界での対話、コミュニケーション、つながりが大切であるとの考えをもつ生徒が多く見られた。また、世界を広くするために、閉じこもらないように世界を広げる、五感を使って自分の世界を広げていくことが大切であるとの意見が見られた。

加藤敬之（愛知県立旭丘高等学校）